

フランシスカンズ・インターナショナル・ジャパン 関西 レポート No.4

総会が開かれました

3月5日(日)、フランシスコの家で16名の出席で開かれました。

チネカ神父の投げかけ

聖フランシスコの生き方をもういちど思い出してみましょう。800年前、アシジの裕福な商人の息子として生まれ、不自由のない生活を送っていましたが、青年になってあるとき自分の持ち物を全部捨てて、自然のものを大切に作る生き方になりました。人間はもともと自然の中で生きていたのに、アダムとエワの時代にごう慢のために自然との調和が壊れてしまいました。フランシスコは「太陽の歌」で自然を心から賛美して、死ぬまで自然の中に行きました。そこでは生と死の対立はないのです。ドイツ語では「死」は女性名詞であり、死ぬことは女性である死から歓迎され、迎えに来て貰うことでもあるのです。

現在の人間が自然を大切にしないため、地球上では毎日4万人の子供たちが飢え死にし、何百万人の子供たちがストレート・チルドレンになって、ゴミと同じように警察や武装グループから追われています。これから環境を毒する物質によってもっと多くの人が死ぬことでしょう。前国連事務総長は、次の戦争は水の取り合いになるだろうと言いましたし、先進国のゴミ、ジーゼルエンジンの排気ガスなどまだ放置されたままの状態です。私は京都市の環境モニターに任命されました。これから目や耳を開いて、市にいる意見を伝えていきたいと思います。

フランシスコの心は良寛さんの心にとっても良く似ています。手を洗った水を大切に、岩を傷付けないように心を配り、切った木のローソクやたいまつを、キリストの光と受け止めました。みみずや小さい虫も、踏みつけられない場所に移してやりました。イエス様は「虫けら」にすぎなかったのですから。引かれていく子羊を、買い取って助けてもやりました。どろぼうにすら優しくして食べさせてやりました。(自分の一枚しかない蒲団を盗んだどろぼうを、憎まずにやさしくした話は良寛さんにもあります)

グループに分かれて話し合い

聖フランシスコは良寛や道元の教えや行動にとっても似たところがあります。

井上洋治神父も自然から受け、共に生きるという東洋の思想を大切にしておられます。聖フランシスコの考えの中に東洋の思想に近いものがあるように思えます。

今日本に物は一杯あるけれど、若い人たちの心の底に響くものがなにもないようです。

禅僧の生活はとても質素で、食器一つで食事を済ませていることに感動しました。

割り箸を使わないためマイハシ(自分の箸を持ち歩く)運動を呼びかけています。

日本では宣伝のためにポケット・ティッシュを配っていますが、もったいないことです。

誰か貰って使わずにゴミ箱に捨ててしまうよりと思い、私は貰って家で有効に使っています。

私は誰も貰わなくなったら、このような無駄なティッシュ配りはしなくなると思い、貰いません。

日本ではティッシュの消費が世界でずば抜けて多いようですが、布巾で拭いて水道の水でその布巾を洗って水を使うのと、どちらが環境にいいのでしょうか、難しいですね。

EM(イーエム)はこうして使ったら環境にとってもいいですよ

前回の集まりで話が出たEMについて、その具体的な使い方を本村さんが説明しました。お米のとぎ汁にわずかのEM1液と糖蜜を入れてかき混ぜて「米のとぎ汁EM発酵液」を作る方法、「EMぼかし」を使って生ゴミ堆肥を作る方法、「EMぼかし」を作る方法と、いろいろな材料を用意して、目の前で実演しながら分かりやすい説明でした。この「EM発酵液」と「EMぼかし」を使うと、合成洗剤を使わずに食器洗いや洗濯に、また風呂場やトイレで大変効果があるということです。また、生ゴミを全くゴミとして出さずに、土地の肥料として全部使うことが出来るということです。今日の参加メンバーにも何人か、家で実際に使ってその効果を体験していました。

参加者は次の方々でした

東、飯山、岩橋、岩橋、江端、岡崎、清水、田中、田中、田中、チネカ、内藤、フランシスカ、ペロニカ、本村、山本(司祭もシスターも交えてアイウエオ順)

米子割り箸サミット(第2回)

昨年に引き続いて、8月18日(金)米子で行われ、今回は5名参加しました。

プログラム

まずは、当日のプログラムを紹介しましょう。(ほぼ昨年と同じ内容です)

- (1) 13:00 ~ あいさつ
- (2) 13:40 ~ ポスター・作文等の優秀作品の表彰式
- (3) 14:00 ~ 事例発表 次の方々による、割り箸回収運動の実施内容の報告。
 - ・ポスター優秀賞受賞者(団体) 代表5名
 - ・作文 優秀賞受賞者(団体) 代表1名
 - ・山田悦雄 (株)シンワ 代表取締役
- (4) 14:50 ~ パネルディスカッション
 - ・パネラー 優秀賞受賞者(団体)及び、向井哲朗氏(王子製紙の回収運動提唱者)
 - ・コーディネーター 浜田妙子さん
- (5) 16:00 ~ コント 「ゴミもダイエット・私もダイエット」リサイクルママの会(福岡県宗像市)
- (6) 16:10 ~ 割り箸とリサイクルの活動(ビデオ)の紹介
- (7) 懇親会

すべて終わって宿に着いたのは夜中の12時過ぎ、輝くシンデレラの馬車もカボチャに戻りました。

印象

当日耳にした話、印象に残った話を寄せていただきました

- ・宗像市ではゴミを14種類に袋に分けている。割り箸もその分別の一つに入れるように市議が先頭になって、行政に働きかけているということです。
- ・割り箸を集めるのは簡単に出来るけれども、それを整理して王子製紙に送るのが大変で、輸送料の問題が大きいネックとなっているという人もいました。
- ・割り箸は間伐材とか製材の余材を使っているのだから決して森林破壊ではないと業者は説明しているのだが、単純にそうともいえない問題がありそうに感じたという人もいました。
- ・割り箸の原料の国内外の比率を尋ねたら、国内5%、中国90%、その他の国5%という回答がありました。国内では木材の中心部を取り去った周辺部材料や間伐材を使っているということです。
- ・米子では、郵便局に回収箱を置き、集まったら工場に運んでいます。郵便局が生きています。郵便局のキャッチ・コピーは「割り箸3膳で葉書1枚」、分かりやすそう

参加者は次の方々でした

飯山、岩橋、チネカ、内藤、橋本(野沢から駆けつけました)

~ 美しい地球を子どもたちに ~

ネットワーク『地球村』代表 高木善之さんの地球環境セミナーに参加

9月8日(金)、高槻現代劇場(高槻教会のすぐ南側)ホールでセミナーが行われました。関西の35万都市で初めてのセミナー開催ということでしたが、高槻の地球村メンバーが大勢スタッフとして働いて、セミナー成功に向けての熱気が感じられました。広い会場がほぼ満席の、600名の参加でした。飯山、岩橋、岩橋、江端、岡崎、川合、チネカ、内藤、フランシスカ、ルカの、総勢10名が参加して強い印象を受けて帰ってきました。高木さんが繰り返して強調されたのは、「事実を知り、身近なことから行い、人に伝え、そして立ち上がって声をあげていったら、日本は必ず変わる」ということでした。

総会開催 9月24日(日)14時~16時 フランシスコの家

NGO・フランシスカンズの組織の名称変更

前回まで「NGOフランシスカンズ・インターナショナル日本」と呼んでいましたが、この呼び方が変わって、「フランシスカンズ・インターナショナル・ジャパン」となりました。このレポートも今回から名称を変更しました。

発行責任者 ライト・チネカ神父 (フランシスカンズ・インターナショナル・ジャパン 関西 代表者)
〒600-8391 京都市下京区佐竹町 388 フランシスコの家 TEL・FAX 075-822-2369